教育目標『よく学び、よく遊び、思いやりの心を大切にする菅原小の子どもたち』

令和5年12月13日

菅原小だより

第8号

枚方市立菅原小学校
校長 牧野 好秀

主体的、意欲的に子どもたちが活躍！

今月６日に、子どもたちが楽しみにしている『菅原パーク』を実施いたしました。３年生から６年生までの子どもたちが、各学級において、前日まで、「企画」「製作」「準備」に携わり、創造力を生かし、アトラクションを考えたり、手作りアミューズメントを製作したりしました。当日は、３年生から６年生の各学級のブースでは、「受付」「説明」「進行」等、子どもたち一人ひとりが役割を担い、互いに協力しながら、進められました。

１，２年生も含めた子どもたちは、それらのブースを回り、受付担当の子どもたちから、体験方法の説明を聞き、積極的に参加していました。どのブースも、子どもたちの笑顔いっぱいに楽しんでいる姿や担当している子どもたちの『主体的・意欲的な動き』がありました。さらに、子ども同士、そして先生と一緒になって取り組む学級の『団結力』を感じ、とても有意義で、『達成感』や『充実感』も感じる、楽しい時間となりました。

３年生

４年生

５年生

６年生

また、今回の活動の中で、子どもたちが、主体的に、そして協力しながら取り組んでいく中で、上手く進めることが出来なかったこともあったかと思いますが、そのことについても、次に生かされる貴重な経験になっていると思います。

『菅原パーク』は、同じ学年の子ども同士だけでなく、学年を越えて、一緒に活動し、上級生が下級生に教えたり、下級生が上級生の姿を見て学んだりする場面もあり、子ども同士の温かな繋がりを感じる良い機会であったと思います。

◆温かな「ありがとう」の言葉を大切に！

12月の児童朝会で、子どもたちに次のような話をしました。

各学年の皆さんと参加した10月、11月の遠足のときの話ですが、皆さんが、バスから降りるときに、運転手さんに「ありがとうございました。」と言っている人がたくさんいました。運転手さんに「ありがとう」と言っている皆さんの姿を見たとき、校長先生は「とってもいいなぁ。」と思いました。遠足のバス乗車代金は、お家の方がお金を払っているのだから、つまり自分たちはお客さんだから、運転手さんに「ありがとう」なんて言う必要はないという考え方もありますね。でも、皆さんは、安全に目的地まで送り届けてくれた運転手さんに「当たり前」だと考えるのではなく、「ありがとうございます。」と気持ちよく、言葉にして伝えていました。その姿に、とても嬉しく思いました。他にも、人にしてもらっていることや、支えられていることがたくさんあると思いますが、感謝の気持ちを伝えることができていますか？

毎日の食事、洗濯、掃除などのお世話をしてくれるお家の人
学校では、色々なことを教えてくれたり、お世話をしてくれる先生
給食を作ってくれる調理員さん
花や草木などの世話や修理をしてくれる校務員さん
何かを手伝ってくれたり、教えてくれたりする友だち

日頃の生活の中で、色々な人たちに支えられていますね。
毎日の生活で、「何でもないこと」が多くあり、「何でもないこと」が当たり前になってしまいそうになりますね。

「何でもないこと」にも「ありがとう」の一言を！
「ありがとう」は、「あったかくて」「不思議な力」を持つ言葉です。
「さりげない一言」が、人と人の気持ちをつなげます。
「ありがとう」の一言をこれからも大切にしてほしいと思います。
「誠実」で「正直」な皆さんは、その言葉を大切にできると思っています。

子どもたちの素直な気持ちを育みながら、挨拶や感謝の言葉を大切にし、人と人の繋がりを大切にすると共に、子どもたちの主体的な頑張りを認め、将来に向けた自立、及び成長へと繋がっていくよう、努めていきたいと思います。

これからも、保護者の皆様と力を合わせ取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。